



ブリ

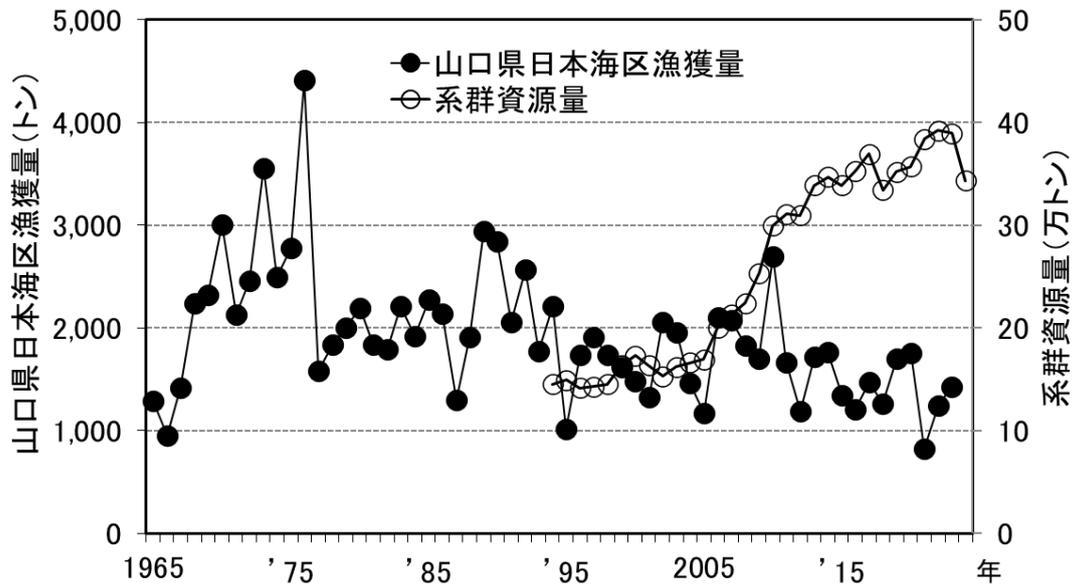


図 山口県日本海区及のぶり類漁獲量 (漁業・養殖業生産統計年報) 及びブリ資源量 ((国研) 水産研究・教育機構資源評価報告書) の推移

【漁業】ブリは主に定置網、釣りおよび刺網で漁獲される。夏～秋には主にヤズ (当歳魚)、冬～春には主にブリ (3 歳魚以上)・メジ (1～2 歳魚) が漁獲される。

【漁獲量】山口県日本海区の漁獲量は、1965 年以降変動しながら増加し、1976 年に最高の 4,412 トンを記録した。しかし、1977 年に 1,578 トンに急減して以降は、約 1,000 トンから 3,000 トンの範囲で増減していたが、2021 年は 822 トンと過去最低となった。その後はやや増加し、2023 年は 1,423 トンであった。

【資源状態】資源量は 1994 年以降 2008 年まで 14.1 万～22.4 万トンで推移し、以降増加傾向となり 2022 年に最高の 39.2 万トンとなった。2024 年の資源量は減少し、34.3 万トンとなった。

2024 年の親魚量 (SB) は最大持続生産量 (MSY) を実現する親魚量 (SB<sub>msy</sub>: 目標管理基準値) を下回った。また、2024 年の漁獲圧 (F) は MSY を実現する漁獲圧 (F<sub>msy</sub>) を上回った。親魚量の動向は増加と判断された。

2024 年漁獲量 (万トン)	MSY (万トン)	2024 年親魚量 (万トン)	目標管理基準値 (万トン)	限界管理基準値 (万トン)	禁漁水準 (万トン)
10.4	13.0	21.7	17.9*	6.9	0.9

\*暫定値